

令和8年度 梅香中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

Ⅰ「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

Ⅰ 全国学力・学習状況調査

※英語はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（CBT＝Computer Based Testing）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率 (%)		平均無解答率 (%)		平均IRTスコア 英語4技能 () 内は3技能 (参考)
			国語	数学	国語	数学	
3 年	学校	167	57	48	9.1	16.0	482 (482)
	大阪市	-	60	55	5.4	11.4	499 (499)
4月23日	全国	-	63.9	57.0	4.9	10.4	499 (499)

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

調査結果とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について

成果と課題

○全国学力・学習状況調査結果

＜国語＞ 平均正答率が全国と比較して6.9%、市と比較して3.0%下回っている。平均無回答率は全国と比較して4.2%、市と比較して3.7%下回っている。学習指導要領の内容 (2) 情報の扱い方に関する事項 においては、全国と比較して差がほとんどなく、努力がみられる。平均無回答率においても全国を下回る結果となっており、問題を読み解き理解する力の育成が必要と思われる。

単語の活用や描写理解など選択問題は堅調な一方、記述問題や思考・判断・表現力に課題が見られる。

＜数学＞ 平均正答率が全国と比較して9.0%、市と比較して7.0%下回っている。平均無回答率は全国と比較して5.6%、市と比較して4.6%下回っている。学習指導要領の内容については、全国と比較していずれも下回る結果となった。

数と式の正答率は比較的高い一方、図形、関数、データの活用に課題が見られた。特に、思考・判断・表現や記述式の正答率が低く、数学的な根拠をもとに考えを説明する力に課題がある。

＜英語＞ 平均IRTスコアが全国、市と比較して17ポイント下回っている。「聞く」技能に関しては大阪府平均を上回っている。一方でまとまりのある英文を書く問題の無回答率が高い。

今後に向けて

国語

特に意見や読解の記述問題では無回答率が高いため、提示された資料や文章から根拠を見出し、筋道立てて説明する記述指導を重点的に行う。さらに、記述の手順を具体化していくことで基礎・基本の確実な定着と学力の底上げを図っていく。

数学

今後は、問題解決の過程を説明する活動や、考えを比較・検討する場面を授業に取り入れ、活用する力の育成を図る。

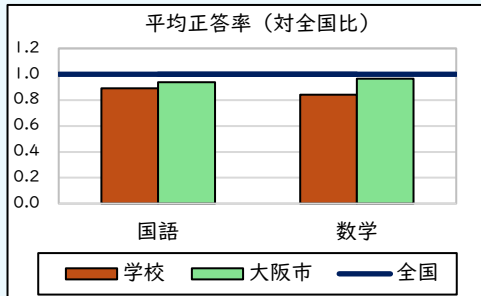
英語

英語の語彙は身につけているが、それを用いてまとまりのある英文を書くことに苦手意識のある生徒が多い。英文の文構造を反復練習し、定着させていく。

令和8年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査結果の概要（国語・数学）

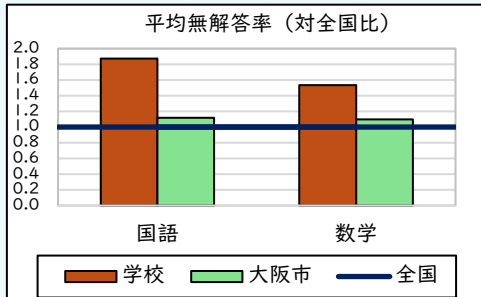
平均正答率（％）

	国語	数学
学校	57	48
大阪市	60	55
全国	63.9	57.0



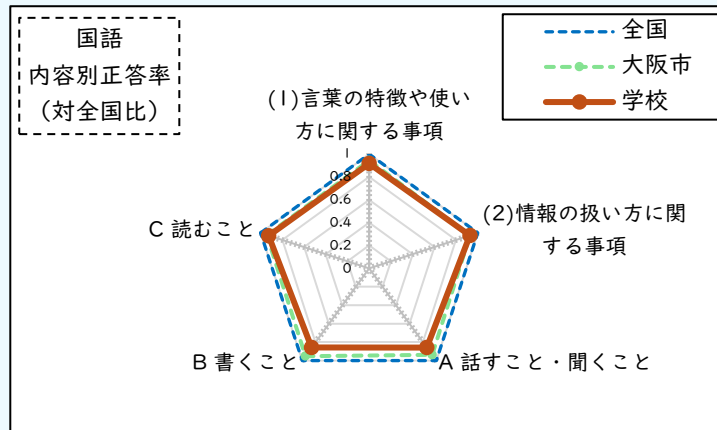
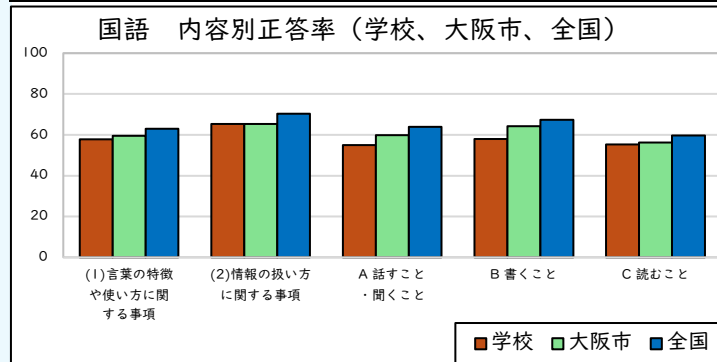
平均無解答率（％）

	国語	数学
学校	9.1	16.0
大阪市	5.4	11.4
全国	4.9	10.4



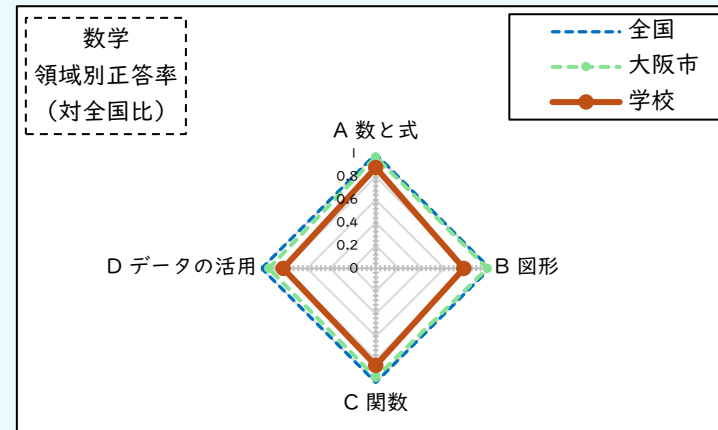
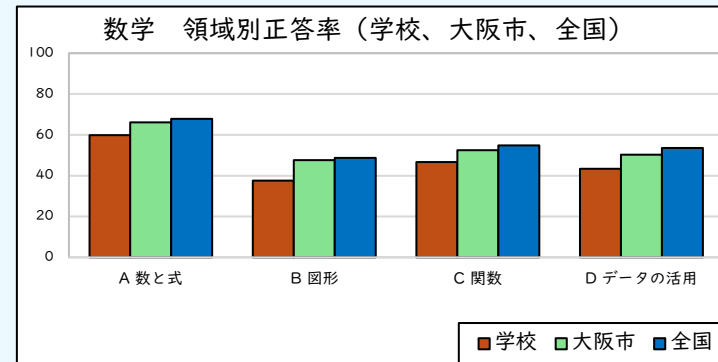
【国語】内容別正答率

学習指導要領の内容	対象問題数（問）	平均正答率（％）		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方にに関する事項	5	57.8	59.5	63.0
(2)情報の扱い方にに関する事項	1	65.3	65.3	70.4
(3)我が国の言語文化に関する事項	0	-	-	-
A 話すこと・聞くこと	3	54.9	59.9	63.9
B 書くこと	3	57.9	64.2	67.4
C 読むこと	3	55.3	56.3	59.7



【数学】領域別正答率

学習指導要領の領域	対象問題数（問）	平均正答率（％）		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	59.8	66.1	67.8
B 図形	4	37.6	47.6	48.7
C 関数	3	46.7	52.5	54.8
D データの活用	4	43.4	50.2	53.5



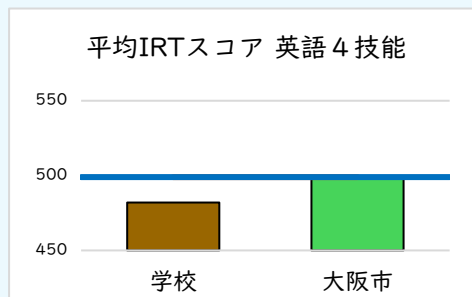
令和8年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査結果の概要（英語）

英語 平均IRTスコア

学校	482 (482)
大阪市	499 (499)
全国	499 (499)

※ 4技能の平均IRTスコアです

※ () 内は3技能の平均IRTスコアです



【IRT(Item Response Theory：項目反応理論）とは】

児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

【IRTスコアとは】

IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

導入する年（中学校英語は令和8年度）の全国平均を基準値とし、経年比較が可能な形で算出します。

【IRTバンドとは】

IRTスコアを1～5の5段階に区切ったものです。3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなります。

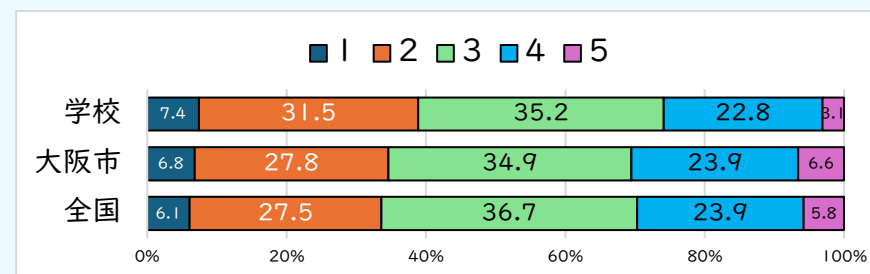
※IRTスコア・IRTバンドは、難易度の高い問題にしていると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出されます。

IRTバンド分布比較（4技能）

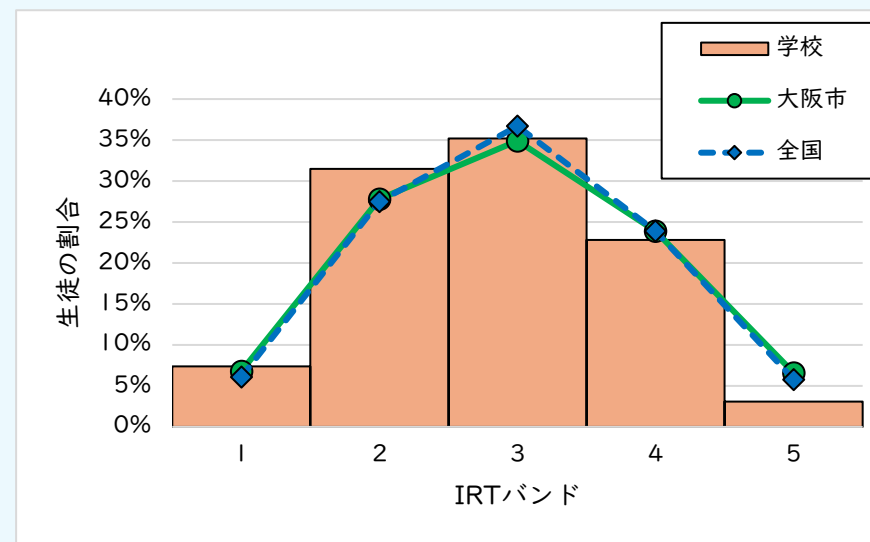
	1	2	3	4	5
学校	7.4	31.5	35.2	22.8	3.1
大阪市	6.8	27.8	34.9	23.9	6.6
全国	6.1	27.5	36.7	23.9	5.8

※ 4技能のIRTバンド分布です

IRTバンド分布比較（4技能）



IRTバンド分布グラフ（4技能）



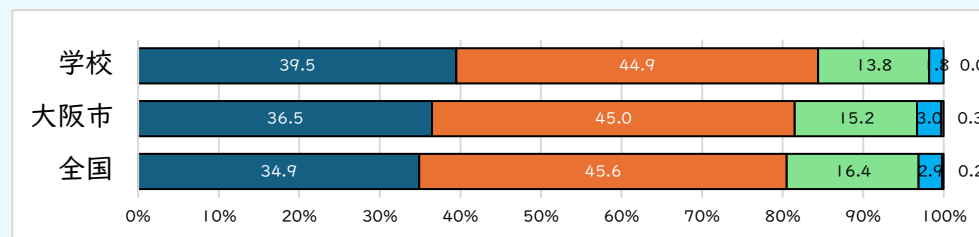
生徒質問調査より

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

■ 1 ■ 2 ■ 3 ■ 4 ■ 5 ■ 6 ■ 7 □ その他・無回答

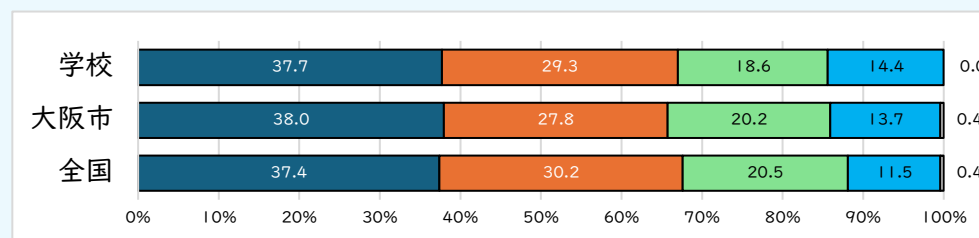
質問番号 質問事項

(2)	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか
-----	--------------------



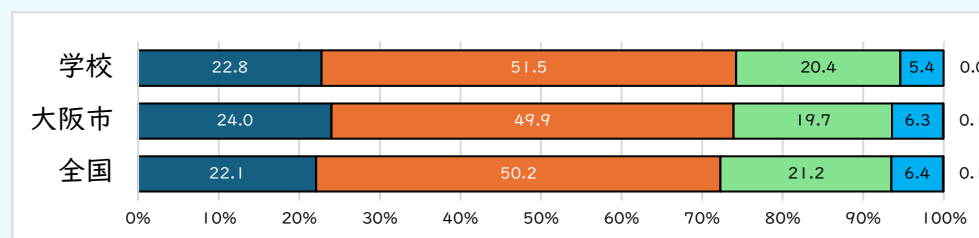
- 1 している
- 2 どちらかといえば、している
- 3 あまりしていない
- 4 全くしていない

(10)	将来の夢や目標を持っていますか
------	-----------------



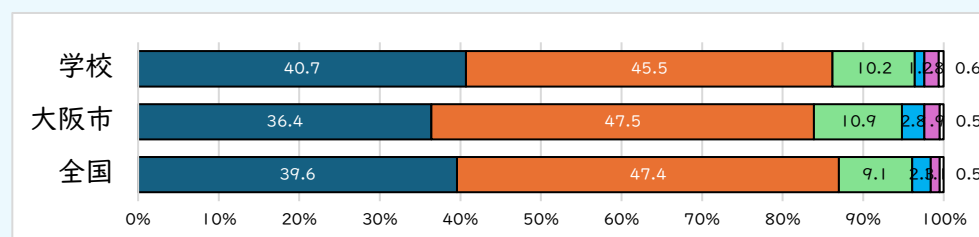
- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない

(33)	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか
------	----------------------------



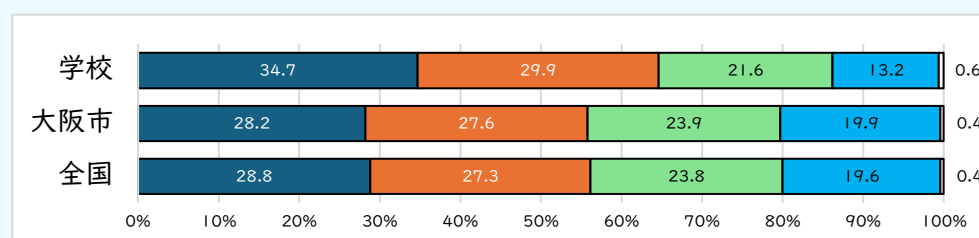
- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない

(42)	学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか
------	---



- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない
- 5 学級の生徒との間で話し合う活動を行って

(61)	数学の勉強は好きですか
------	-------------



- 1 当てはまる
- 2 どちらかといえば、当てはまる
- 3 どちらかといえば、当てはまらない
- 4 当てはまらない